

2015年(平成27年)1月16日 金曜日

地域総合 18



農機具や農薬の管理、作業中の安全管理などについて、GAPアドバイザーの助言に耳を傾ける龍の瞳の生産者ら。下呂市萩原町野上

米作り、異物混入に注意

食の安全や環境に配慮した農業について学ぶ研修講座が下呂市内の農場などで開かれ、ブランド米「龍の瞳」の生産者ら約80人が参加した。

国が推進する農業生

「龍の瞳」生産者ら講座 下呂市

産工程管理「良い農業の実践(GAP)」を広めようと、県が毎年GAPアドバイザーを派遣し、開講。本年度は県内3カ所で行い、今回は2回目。

龍の瞳生産組合、ひだ

金山茶生産組合の組合員らが参加。一般社団法人「日本生産者GAP協会」の田上隆一代表が講師を務め、野上地区龍の瞳生産組合の成田茂組合長

産組合の成田茂組合長

産組合の成田茂組合長

産組合の成田茂組合長

産組合の成田茂組合長

産組合の成田茂組合長

「食品を扱う機械と農薬は分けて保管するなど、

万が一のリスクを最小限に抑えるルールを組合全体で徹底することが大切」などとアドバイス。販売などを手掛ける龍の瞳の今井隆社長(59)は「同町富田は海外で認められるには、農業への意識をさらに高めていくことが必要。今後、生産者の意見を集約したマニュアルなども作ってほしい」と話していた。

販売などを手掛ける龍の瞳の今井隆社長(59)は「同町富田は海外で認められるには、農業への意識をさらに高めていくことが必要。今後、生産者の意見を集約したマニュアルなども作ってほしい」と話していた。

販売などを手掛ける龍の瞳の今井隆社長(59)は「同町富田は海外で認められるには、農業への意識をさらに高めていくことが必要。今後、生産者の意見を集約したマニュアルなども作ってほしい」と話していた。

販売などを手掛ける龍の瞳の今井隆社長(59)は「同町富田は海外で認められるには、農業への意識をさらに高めていくことが必要。今後、生産者の意見を集約したマニュアルなども作ってほしい」と話していた。

販売などを手掛ける龍の瞳の今井隆社長(59)は「同町富田は海外で認められるには、農業への意識をさらに高めていくことが必要。今後、生産者の意見を集約したマニュアルなども作ってほしい」と話していた。

販売などを手掛ける龍の瞳の今井隆社長(59)は「同町富田は海外で認められるには、農業への意識をさらに高めていくことが必要。今後、生産者の意見を集約したマニュアルなども作ってほしい」と話していた。

(山田雄大)